

緑の地球ネットワーク

2017 黄土高原スタディツアー 体験記

2017.8.26 ~ 9.1



認定 NPO 法人 緑の地球ネットワーク

〒 552-0012 大阪市港区市岡 1-5-24-303

TEL. 06-6576-6181 FAX. 06-6576-6182

e-mail : gentree@s4.dion.ne.jp URL <http://gen-tree.org>

facebook <https://www.facebook.com/genfcbk/>

【日程】

8月26日（土）	朝、出発。昼、北京着。バスで河北省張家口市蔚県へ 打樹花見学	いしせん 小肥羊賓館泊
27日（日）	蔚州博物館、暖泉鎮参観	だんせんちん 〃
28日（月）	飛狐峪、空中草原見学。南張庄村で切り絵体験	ひこよく 〃
29日（火）	永寧寨村で植樹。大同市靈丘県へむかう	えいねいさい 明珠国際酒店泊
30日（水）	南天門自然植物園で活動。大同市内へ	れいきゅう 雲崗国際酒店泊
31日（木）	大同県聚楽郷采涼山地球環境林、カササギの森、 緑の地球環境センター見学。列車で北京へ	じゅらく さいりょう 護国寺賓館泊
9月1日（金）	ホテル周辺を散策、北京空港へ。帰国	

（読みがなは原則として日本語の音読みをあてました。）

【参加者名簿】

S. A	埼玉県	M. I	千葉県
K. I	福岡県	J. O	千葉県
A. O	埼玉県	T. K	千葉県
R. S	東京都	M. S	奈良県
K. T	東京都	高見 邦雄	兵庫県
J. Z	北京市	K. T	京都府
A. N	福岡県	東川 貴子	兵庫県
S. F	兵庫県	K. F	静岡県
M. F	静岡県	前中 久行	大阪府
K. M	東京都	M. Y	神奈川県
Y. W	東京都		

【中国側スタッフ】

蔚県

李志剛（共青团蔚県委員会書記）

柳柳楊（ボランティア）

張小立（？）

大同

武春珍（緑色地球網絡大同事務所所長）

魏生学（同副所長）

李海静（同スタッフ）

李向東（南天門自然植物園）

王 萍（ボランティア通訳）

北京

崔 斌（中国国際青年交流センター通訳）

● 8月26日（土）大阪雨→曇、中国曇

【R.S記】

今日は、早起きをして羽田空港でみんなと待ち合わせをして無事北京空港に到着しました！！機内では「モアナと伝説の海」を見ました。思ったより面白くなかったです（笑）。でも歌が個人的には好きでした。😊🐦

そして北京に到着後、打樹花を観賞しました！！鉄を溶かしたパフォーマンスはとても感動的でした。🐦

夜は近くのホテルのレストランで食事でした。🐦味が自分に合うか心配でしたが、とっても美味しかったです。😊🐦特に焼きそばみたいな料理が好きでいっぱい食べました…！！♡明日からに備えて早めに寝ます。おやすみなさい。

【東川貴子記】

出発の朝は蒸し暑く、雨模様。自宅から駅まで歩く間、奇跡的に雨が止んで助かった。園田あたりから梅田を経てリムジンで空港に着くまで本降り。

3人から集合時間に遅れると聞いていて、そのとおりの集合。車椅子を借りたIさんにNさんが付き添う。

9時ごろ離陸、10時55分着陸。だいたい時間通り。北京空港は前回より少し変わっていて、入国審査のブースにゲートがついていた。また、税関でパスポートチェックがあった（機械に読みとらせる）。前までフリーパスだったのと思ったが、考えてみれば関空では同じことを人間がずっとやっていた。

羽田便が少し遅れて、空港を出発したのは13時40分ごろ？ 蔚県からは、張小立女士が迎えに来てくれた。打樹花に間にあうか、時間の余裕がない。

北京で少し渋滞にあったが、八達嶺、官庁ダムを過ぎて蔚県東で高速を下りたのが18時15分。

打樹花にはなんとか間に合った！よかった。劇の部分のセリフは全くわからないが（蔚県の方言を使っているらしく字幕と音が違ったりするそう）、あらずじは単純なので支障はない。アクロバティックな演技や、立ち回りを楽しみ、クライマックスの打樹花。1,600℃にもなる熔鉄を、柳のひしゃくですくい、壁にぶちまけて火花を楽しむ。500年の伝統があり、もとは元宵節の花火を買えない農民が、かわりに考えたという「貧者の花火」。輝く火花が飛び散る様は、花火とは違った迫力がある。蔚県の5つの花の筆頭に数えられる打樹花。あとの4つは、切り絵、彫刻、杏花、エーデルワイス。今回は空中草原にも行くのでエーデルワイスも楽しめるかな。乞ご期待。

【M.S記】

ツアー初日、関空の集合場所に行くと、早速東川さんから日誌のトップバッターを命ぜられた。名誉なことだが、最近手書きの原稿というものは全くない。誤字脱字、さらに生来の悪筆ゆえ読みにくいのはご勘弁願いたい。

ツアー第1日は、3時半の起床で始まった。関空7時集合を逆算するとどうしてもそうなる。心配は天気だったが、雨の予報に反して何とか持っていた。が、出発時刻になると小雨に変わっていた。いつもなら嫁さんに車で駅まで送ってもらって問題ないのだが、生憎旅行中で不在、歩いていくしかない。キャリーバッグにゴミ袋のカバーをかけ歩き始めたのは良かったが、段々と雨足が強くなり、風もきつくなってきた。運悪く今季特有のミニ集中豪雨模様だが進むしかない。駅まで10分余りだがズブ濡れになってしまった。

ツアー初日、関空集合は前中、高見、東川、I、T、N、F、F(K)、F(M)の皆さんと小生の総勢10名、小生初参加で顔見知りは少なかったが、平均年令は高そうだった。

飛行機はCA162、中国人旅行客で満席だった。中国というとまずは国内外を問わずどこに行っても人の量で圧倒される。そしてあのやかましさ。北京空港は3年振りだったが、まず出入国管理のブースが一新されており、入国者の滞留は無かった。たまたま旅客の端境時刻だったかもしれないが、そして、

税関も新しいブースが設置されていた。中国はこうした設備改善は早い。

入国後、出口（入口）付近のお釜のそばで羽田組の到着を待ったが、どういう訳か大分遅れた合流だった。

初日は目的地（蔚県）までの移動日だが、バスで5時間、長くはあったが車窓をそれなりに楽しめた。

まずは高速道路の連なり。インフラの整備はしっかりしている。利用車種は圧倒的に大型貨物が多かった。物流の大動脈、また密から疎への緑の変化、高速道路の両脇はどこまでもどこまでも植樹による緑化がなされていたのも印象的だった。

途中湖の周囲、広範な地域でおびただしい数の風力発電機が設置されていた。風がそれ程あるとは思えないのに結構強力に回っていたのもあれば、丘の上では全く動いていないのも多くあった。程良い風の道があるのかもしれない。小山の斜面には太陽光パネル、その気になれば再エネも早い。

そして平地は見渡す限りトウモロコシの畑、農民の生活も豊かになっているようだ。

昼食は車中で弁当を支給、とあったのでどんなものが出るのか期待していたが、パンとソーセージ、小さなリンゴ也。ここは中国だ。

当初、明日に予定されていた打樹花鑑賞が本日となった。貧しさから花火に代わる技能として考案されたという伝統芸能が壮大なショーに組み込まれていた。全く花火のような輝きがあった。

その後の遅い夕食。時間が無く美味そうな料理も堪能できなかった。

● 8月27日（日）大雨

【A.N記】

26日夜観た“打樹花”は圧巻でした。農村地帯に突如現れた1000人も収容しようか？という大きな建物、その中で演じられた中国式オペラというものでしょう。昔話の中の一つの物語として演じられたが、曲芸あり、映写あり、レーザー光線を使ったり、本物の馬や羊がステージの上を走る演出にすばらしいものがありました。ストーリーは単純なものでしたが以前観た京劇と違った迫力とおもしろさがありました。演劇の技術、迫力、演出等今の日本と変らないような進歩におどろきました。

27日観覧した博物館の展示物もすばらしいものでした。よくもこんな貴重な文物が残されていたものです。北京の故宮に劣らない貴重な文物だけに大切に保存し、中国の宝として後世に残してもらいたいものです。

<暖泉鎮古堡>は中国映画の場面に出てきそうな風景があちこちにあり、ちょっとしたロマンチックな気分になりました。

【S.A記】

<旧暦の七夕の前日>

リュウさんのお話では、織姫と彦星が明日に会えて嬉しいと泣いているから雨が降っているらしい。七夕当日にブドウの木の下で練った小麦粉の人形を持っていると織姫と彦星の会話が聞こえるらしい…。

日本では織姫と彦星は恋人同士だったはずだが、中国では家族で子どもも2人いることは驚いた。

<午前>蔚州博物館へGO
旧石器時代から明の時代までの貴重な文化財や歴史人物についてガイドをうけつつ見ることができました。個人的には、刀銭・布銭を生で見ることができて感動しました。

<午後>暖泉鎮で古堡見学!!

結婚するときにする贈り物が大きい！ 大きさでお婿さんの家柄を測る。※（現代ならBMWなどの高級車で見る??）。



古堡内ではどこも似た様な景色に感じられて迷子になりそう。ガイドさんの制服が素敵でした！（ピンクのチャイナ服に桜？桃？がかかれたシフォンスカート）

夕食では、リクエストのジャガイモの千切りを炒めた物や、水餃子が出てきてとても美味しかったです。拍手をすると歌を歌うものなのか？ 日本語版・中国語版それぞれで日本の歌を歌いました。

夕食後には、商店へ行って、クッキーと桃ジュースを買いました。なぜか店主の方が私たちを動画に撮っていて不思議でした。

【T.K 記】

本日は朝から雨。同室のM氏は傘を忘れ、朝から超市へ買いに行った。

午前中は蔚県博物館参観。近年建て直したもののだろうが、県レベルの機関とは思えないほど大きく充実している。観光で潤っているのか、それとも「ヤリ手」の幹部がいるのか。どちらにしても大変見応えのあるものだった。ただ、前提となる知識がない学生たちにはどれだけ理解できたのだろうか。

昼食後、一度部屋へもどって休息。その際、「引率」として責任を持って学習院生を数人、「超市」へ連れて行く。小さく、品ぞろえも悪い超市だが、全てが目新しい学生たちは楽しそうに買い物をしていた。

午後、暖泉鎮へ古鎮見学。都市（城市）ではなく、村や鎮が壁で囲まれた「堡」だが、これは戦乱の多かった華北に多い。太平天国時期にも多く建てられている。

暖泉鎮は交通の要衝にあった鎮ということもあり、往時のはなやかな様子が伝わってきた。当時は様々なものが交易されていたのであろう。

ここには3時間あまり滞在したのだが、その間に大きな問題が発生した。大雨である。滞在中に雨が強まり、最後、遼・宋の歴史についての展示を見ている間に、本格的な大雨となってしまった。中国で大雨が降ると問題になるのが排水である。排水が悪いので、水が容易にあふれ、なかなか引かない。暖泉鎮の古道も、まさに河の様に水が流れる事態となった。靴はビショぬれとなったが、乾くだろうか。

「濡れ鼠」ご一行は、その後夕食へ。今回3度目の豪金泉酒家。昼に劉女史へリクエストを出しておいたため、餃子や焼き唐辛子が出る。またこれまで2食、食べものの「浪費」が多かったとのことで、料理を少なめにする。中国の宴会では酒の心配ばかりされるが、実は食の方も大変である。私も農村調査を始めたばかりの頃は、文字通り「吐く程」食べさせられた。とはいえ、胃が丈夫であることが、私などが中国研究を続けられている一つの理由である。

食後、F氏部屋にて二次会。美味しいバランタインをご相伴にあずかる。バランタインはすぐに飲み干してしまい、最終的には白酒へ。皆で学生に瓜子の食べ方を指南しながら、気が付くと日付が変わり解散となる。

そんな訳で、現在、翌日の28日朝。同室のM氏を待たせながらこれを書いている。お互いの腹の虫に怒られないうちに朝食を食べ、本日の活動を始めよう。

● 8月28日（月） 晴れ

【M.Y 記】

今日は午前中に飛狐峪と空中草原を見学しました。バスからの景色を見ると、日本では見られない広大な大地が広がっていて、ヤギや牛などの群れを頻繁に見ることができ、改めて中国の国土の広さと中国の大自然を感じることができました。空中草原では、標高約2000mだったので想像よりはるかに風が強く寒かったためレンタルのジャケットを借りることにしました。とても暖かくなりましたが、私のジャケットだけボタンはあるのにボタンを通す穴が無く、少し笑ってしまいました（笑）。バスから降りると、ここぞとばかりにたくさんの馬とあやつる人たちが集まり、あっという間に360度囲まれてしまいました（笑）。現地の方たちの圧が怖かったので逃げましたが、どこにでもついてくるのには驚きました。そして午後は切り絵を見に行きました。おみやげ店では福のデザインが多く、それ

だけでもたくさん迷ってしまい、選びきれない程多くのきれいな切り絵が並べられていました。違うお店では体験ができるとのことだったので、うし年生まれなのでうしの切り絵を作りました。想像の何倍もの難しさで終わるまでに1時間半かかりましたが、終わった後の達成感は凄く、売り物と同じ額縁に入れてもらい良いお土産ができました！ 作っている人をあらためて尊敬しました。

【K.T記】

3日目の朝を迎え、小肥羊賓館での7時からの朝食もスムーズに運び、8時30分に予定通りバスで出発した。9時30分には、飛狐峪と称される砂岩層の絶壁が両側に連なる溪谷に入り、2ヶ所程バスを降りて、その自然のダイナミックスさを堪能する。徐々に高度を上げ、溪谷から草原状態に移る。その中国の大自然の雄大さ・広さに感激する。

10時40分には空中草原に到着した。2100m程度の高原で、さすがに気温も低く、風が強いため、中国軍隊が着用しているコートを半数近くの人が借り、その空中草原をバスで一周した。その間、途中でバスを降り、馬に乗ったり、地下の空洞でそのまま残っている雪を体験したり、また、草原に咲くエーデルワイス等の高山植物を観察し、さらに、羊や牛が放牧されている雄大な草原の景色に心うたれた。途中、バスの中で軽い昼食をとり、遅くなる昼食対応とした。

12時15分に空中草原一周を終え、集合写真を撮り、借りたコートを返して、帰ることとなった。

13時10分には、草原の終り近くの「八仙山荘」のパオで昼食とした。ばれいしょやトウモロコシをゆでたのや、お米のご飯もあり、10種類以上の料理を堪能した。

14時10分に出発し、飛狐峪を通り、15時にホテルに着いた。

ホテルで休憩し、16時にバスで南張庄剪紙村の剪紙店で買物したり、女性陣は体験コースに挑戦した。年寄り男性陣は一時ホテルに戻り、18時30分に夕食会場に向かった。19時過ぎには剪紙体験で頑張った女性陣も合流し、夕食が始まった。話がはずみ、白酒もたくさん飲んだようで、最後は女子大生5名の踊りが披露され、20時30分に終了した。

ホテルへ戻り、ゆっくり休むこととなった。明日は7時30分出発で、道路事情からミニバス2台で植樹することとなった。

【Y.W記】

スタディツアー3日目。昨日の雨の影響で道路の状態が悪いということで明日の予定と交換になったことをバスの中で知る。今日のような雨の降り方はめずらしいと、東川さん談。初めての河北省なので、何が通常と異なるのか、ベテランのみなさまからお話を伺うのが非常に楽しい。

中国と言うと、大抵はガンガン発展を続けているイメージがあるが、その実内部の格差が非常に激しい。通常のツアー旅行では都心部を見ることがないので、多くの日本人は“貧しい中国”のイメージが湧かない。しかし今回も舗装されてない道路の状況が昨日の大雨でどうなったことか、想像に難くない。きっと初中国の大学生の方々にもこういった日常の一コマを通して、これからの“中国の伸び代”を体感していくのだろう。同時に人々の暖かさ優しさも感じて、“現実の中国”を獲得していくと共に、これからの日中友好へ貢献する人材になることを願う。

<七夕節 qixi jie >

さて、本日は旧暦で七月七日七夕。中国人にとっては伝統ある恋人の日だ。日本人の知る七夕と中国人の七夕では物語が少々異なっている。こういったとき、日本は中国から様々なモノ、文化を輸入したと同時に、まったく同じではないという当たり前のことに気付かされる。

<封山育林>

標高1400mを超え、シラカバが多く見られるようになってくる。“緑化”というと、植林のイメージが強かったのだが、今日覆された。樹木が種子を飛ばし、自然に増えていくが、その途中に薪取り、伐採や放牧（この辺りでは羊やヤギ）で減ってしまうのを、山を封じ、林を育てる政策によって、緑化を推進しているようだ。放牧をしなくても生活できる社会的ファクターも緑化活動には非常に重要

なのだと気付かされた。

また、3県が隣するエリアではあの“エーデルワイス”を観ることができた。中国ではここ“空中草原”でしか植生していないそうだ。高原植物として有名なエーデルワイスが（打樹花、切り絵、彫刻、エーデルワイス、あんず）植生するには標高が高いだけでなく、湿潤な気候と土壌に岩が含まれてないと自生しない。小学校の音楽の授業で“エーデルワイス”を歌った時の想像よりも、白より緑の中の白さに想像が覆された。

<中国銀行>

昼食を食べ、宿に戻ってくると、1時間の小休憩。レートが比較的良好いので、次回の中国訪問に備えて両替しようと宿の向かいにある中国銀行へ。先月学校の先輩方の北京留学の際も多く銀行で両替を断られたと聞いていたので心積もりはしていたが、私も断られてしまった。聞くと、クレカで先程別の日本人が引き出したと言うので、別に用意しておいたデビットカードでキャッシュアウトを試みるも、こちらもできず。他に方法はないか聞けば、口座が必要だという。春からずっと中国での口座開設のハードルが上がっていることは聞いていたが、やはり私もここではできなかった。旅行者の身分では中々できる銀行に限られるようだ。また、どこかのタイミングでキャッシュアウト、口座開設にチャレンジしてみたいと思うと同時に、自分の中国語能力をもっともっと高めなければ！と思わされた。

<剪纸 jian zhi >

休憩が終わると蔚県で1番の剪纸の村だといわれるところへ来た。ここは何と6割の人々が剪纸に携わり、年収の4割程を占めるそうだ。

一般的には1本の刃物のみで切り抜くのが特徴で、切り抜かれた部分はすべてつながっており、その繊細な優美さは絵だと思わされてしまうほどだ。今日私たちは最初に1番の名手という周さんの作品を彼女の解説と共に見学した。一色のものしか知らなかったが、何色もの色紙で作られたものは絵画のようであり、1年かけて10mもある巻き物は高級感に溢れていた。

学校の社会の授業で文化遺産に登録されたと学んだが、最も地域特色のある剪纸はここ河北省蔚県のものである。その特徴の一つは陰刻（線を残す）方が主流だとのこと。見学後に別の場所で20円で体験してみたのだが、この陰刻の難しさにより一層剪纸作者の人々への尊敬の気持ちが高まった。1時間内で仕上げなければならず、ギリギリ時間に間に合わせられて一安心。私が不器用なものもあるが馬は特にたてがみなど細かい部分も多かった（体験では好きな動物の図案を選べる。皆自分の干支を選んだが、自分の干支や家族の干支を知らない子もいて、個人的には正月の年賀状を出す人が減っている影響なのか？と思った）。でき上がりを更に10円で額を購入し、入れてみると、意外と中々のでき上がりに思えた。達成感と相まって很开心！

☆中国と日本では七夕の物語の内容が異なるので簡単に紹介します。

七夕節 qixi jie

働き者の男、その兄夫婦がいた。兄の嫁は働き者の男へあまり食事を与えず、たくさんの仕事を与えた。働き者の男は文句を言うこともなく、ひたすら働き続けた。農作業のときは一緒に働く牛はそれを不憫に思って働き者の男へ言った。「近くの川へ仙女たちが水浴びに来るから7人目の仙女の衣を隠しなさい。そして何があろうと仙女に返してはいけない。もし助けが必要になったら私を3回呼びなさい」。男は牛の言うとおりにし、仙女と結婚し、一男一女の子どもまで生まれ、しばらく幸せに暮らした。しかし、子どもも大きくなったので大丈夫だろうと思い、衣のことを話してしまった。すると仙女は天界へ帰ってしまい、困った男は牛を3回呼んだ。牛は「私を皮にして、羽織り追いかけなさい」と言った。男は洩るもそのとおりに追いかけた。しかし、男は仙人なので天界まで行けず、天の川を渡れなかった。下界で泣く子どもたちと近くまで追いかけた男の愛情深さに仙女はかわいそうに思った。するとそれを見ていた天界の神がカササギで橋を作り、1年に1度会えるようにした。

※七夕の物語はいくつかあって、今回は私が学校で聞いたものを紹介しました。ぜひ一度皆さんも調べてみてください！

【高見邦雄記】

昨日は未明から深夜までまるまる一日雨だった。もともと今日は永寧寨村での植樹が予定されていたが、おそらくいけないだろう、それならどうするか、中国側は早くから気にかけて、私にも相談してきていた。さいわい今日は晴れたので、予定を前後させ、今日は飛狐峪と空中草原に行き、明日 29 日に永寧寨村に行くことに決まった。

バスで宿を出発し、飛狐峪の区域に入った。南北の延長は 40 余里。中国の 1 里は 0.5km だから 20km ほどだ。

いまはその奇観をウリにする観光地だが、その昔は南の農耕地帯と北の遊牧地帯とを結ぶ重要なルートだった。戦時には双方の必争の地となり、平時には隊商が行き来した。蔚州の経済的發展を支えた山西商人の活躍の舞台だったのである。

バスが最初に停まったのは飛狐峪最大の見どころ「一柱香」。細長い岩が、それこそ線香のように直立している。ここにくると、誰もが写真を撮りたくなるようで、戦時中に朝日新聞社が発行した『支那事変全写真集』には、この岩の下を南に向かって歩む日本軍が写っており、蔚県のあちこちにその写真が展示されている。私たちが訪れたのはちょうど 80 年の節目の年だ。

つぎにバスを停めたのは『楊家将』の勇士、楊六郎が弓矢を射て、岩に穴を開けたと伝わる所だ。たしかに、この穴がどのようにしてできたのか、ふしぎではある。そう伝えられる穴は飛狐峪にほかにもあり、六郎の矢があけたとすれば、その矢はジグザグに飛んだことになる。

途中、トンネルと橋脚による高速道路が顔をだす。張石高速で張家口と河北省の省会・石家荘を結んでいる。蔚県とその南の保定市涞源県とのあいだが難関で、ほかはずっと以前に開通したのに、この区間が開通したのはつい最近のことだ。

八仙洞でまたバスが停まった。道路の西側の山の中腹に洞窟が横に並んでいる。8 つのうち 7 つは内部でつながっており、1 つだけ独立しているそうだ。八仙人のうち一人だけ女性なので、そのような解釈がなされているようだ。この八仙人が日本にわたって七福神になったという説がある。途中で一人が欠け、名前も変わった。

バスは左右のカーブを重ねながら、徐々に高度を上げていく。峠を越えるたびに壮大な光景が顔をだす。空中草原地区に入ったのだ。出発地の蔚県は海拔 900m ほどだが、空中草原は 2000m を超える。

ここの空中草原に、大同市靈丘県がわから何度かきたことがある。その経験からの予測は大きく裏切られた。まずは面積がこちらのほうがずっと大きく、36km² もあるそうだ。靈丘側では歩いて回ったが、ここではお金を払って車を乗り入れるか、観光用の車に乗り換えるかする。

こちらでは観光開発が大きくすすみ、道路が整備され、ビジターハウスのようなものから、レストランまでそろっている。蔚県では劇場まであるときいたが、それは見なかった。

県城より確実に 6 度以上、気温が下がっているうえに風が強い。何人もの人が 30 元を払って、コート借りた。私はウィンドブレーカーの下にブルゾンを着て、なんとかしのいだ。

靈丘がわの空中草原にいったとき、私は単純に、森林限界のうえにある草原と理解していた。だがここでみると、草原を維持しているのはヤギ、ウシ、ウマなど家畜の放牧によるところが大きい。あちこちでその群れをみた。それらの家畜によって、(長めの) 芝生のような草原が維持されているのである。それは生産活動の結果である。その維持のために人手をかけるとしたら、経済的にとても成り立たないだろう。

私はここでたくさんの草花にであえることを期待していた。しかし芝生状の草原にそれは望めなかったが、傾斜の急なところなど家畜の進入がむずかしいところに、お花畑ができていた。トリカブト、ヒエンソウ、マツムシソウなどの紫と、ウメバチソウ、エーデルワイスなどの白い花が多く、そのなかで透明感のある黄色のポピーがめだっていた。エーデルワイス、つまりウスユキソウのなかまは蔚県を代表する花であり、県城の大通りに雪絨花(エーデルワイス) 大道の名がついている。放牧の影響か、どれも丈が低い。

「脚踏三県」の石碑のところで、私ひとりバスをおりて、写真を撮った。三県とは河北省張家口市

蔚県、同省保定市涞源県、山西省大同市靈丘県だから、控えめにいっても「脚踏三市」といってもいいのだろう。

空中草原にきてから、どこでどの角度にむかって写真を撮っても、そのなかに風力発電の群れがはいっている。本来なら違和感をもつ人工物のはずなのに、私の感覚はそれを受け入れてしまっている。どこにいても、山の稜線にはこの風力発電の風車があり、べつのところにはメガソーラーのパネルが並んでいる。とくに今回、河北省のあちこちで、荒れ山の斜面にソーラーパネルが並んでいるのをみた。私は最初、バス中での案内で「小規模なものです」といったが、その後、ずっとそれがつづいているのをみて、訂正をした。

新しいものといえば、空中草原の洗手间（トイレ）。左男性、右女性の表示があるなかで、その中間に、「中性洗手间」の表示があった。時代の先端をいっているのだろうか？

● 8月29日（火） 晴れ

【前中久行記】

朝食はほぼ全員で、ホテル近くの普通の食堂へ。包子とゆで玉子入りのそば汁。

荷物を整理した後、小型バス2台で永寧寨村の植林予定地へ向う。山すそで一時的停車する。一昨日の雨の後なので、車の通行が可能かどうか確かめるために、松苗を積んだ三輪トラックが先行する。停車のままで、その報告を30分程待つ。結果は通行不能とのこと（我々が到着するまでに、確認してほしいなあ）。

別の場所であるということで、別の谷スジ道を入るが、川の狭い横地で、緑化適地なし。再度引きかえす。結局、道路となりの既植樹地へ再度転進、そこの枯損苗の植えなおしをする。今春に植えられた100×200m程のアブラ松、活育率は約50%程度。今年の伸び枝の長さは10～15cmと短く、おまけに、最近伸びたいわゆる土用芽が多く発生している。植え替えのため掘り起こした地下部を見るとビニール鉢がそのままついているのが多い。補植を行ったのは、10m×50m程度で、苗数は50～100本程度と思う。作業時間は1時間あまり。西瓜を食べて、つかれをいやす。

昼食に向う。緑色生態料理をうたう店で、前から結婚パーティが行われており、大音響の音楽だったが、そのうちにそちらの宴会は終る。

ホテルへの帰り道の途中で、来年の植栽予定地、代王城鎮を少しのぞく。はんらん原で、現状は草地だった。ホテル帰着後、おおいそぎで荷物の運び出しとチェックアウト。3時半すぎ蔚県を出発。広靈県まわりで、靈丘県へ向う。5時に明珠商務ホテルに到着。

【J.O記】

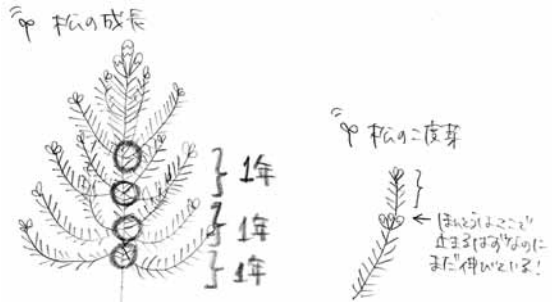


今日は、いつものホテルの朝食とは違うお店に行って食事をした。肉まんとそばが出て、食べてみると肉まんが本当においしくて何個でも食べられそうだった。しかし、不運なことに朝から腹痛がひどく、結局1つしか食べなかった。少し話が飛んでしまうが、腹痛の原因を考えたところ、昨日食べたよくわからないコーヒー味のアイスクリームが要因ではないかという結論に至った。おいしそうだからといって何でも口に入れるのはよくないなと実感した。

今日はこの旅の真の目的である植林の日だった。車で20分程移動し、道路が舗装されていない小路に入ったところで車は止まった。降りてみると、連日降り続いた雨で川が氾濫し、道がえぐれてしまい山に登るのが困難だという判断が下された。そのかわりに、平地の松林のような場所で作業することになった。そこは、何年前かに植林した場所であるが、3割程が枯れていた。今回は、その枯れた松を新しい苗木に変える作業をした。やり方としては、まず50cm程穴を掘って、苗木のビニール袋をはがし、土で埋めて、軽く土を踏んで固め、最後に盆の形をつくるという過程だ。実際にスコップで土を掘ってみると、土がすごく柔らかく、少し足で踏まないと苗木が安定しなかった。コツとしては、横幅をあまり広くしないほうが上手く植えることができた。植林の際、重要なポイントは、苗木のビニールを必ずとってから土に埋めることだと教わった。実際に、枯れた松を抜いてみると8割程ビニー

ルがついたままであった。ビニールをつけたまま植えると、根を張れず、水が根まで届かないから、枯れてしまうというお話であった。この話を伺ったとき、非常に当り前なことではあるが、植物は人間と同様に生きているんだなあと改めて実感した。植物はとてもデリケートだから、1つ1つ大切に扱わなければならないと思いました。7本ぐらい植えたとき、現地の方々が取りたてのすいかを用意してくださった。真っ赤でみずみずしくて本当においしかった。お腹が痛いながらも3つも食べてしまった。食べているとき、Sさんに今年の松はめずらしいという話を伺った。通常松は成長が止まると冬芽というものができるが、昨年度は降水量が多く水に富んでいたため、二度芽という芽が出て成長を続けているということだった。

また、松の成長を目で確認することができるということを知った。図のように枝が分岐している点と点の間が1年だということだ。植えた松が元気に成長している様子を目で確認するとなんだか嬉しくなった。今回私たちが植えた松も元気に育ってほしいと願う。



お昼は村の方で食べた。15種類ぐらいの料理が振舞われた。アңызのフリットがとてもおいしくて日本にもあればいいのになあと思いつつ、ぱくぱく食べた。あとあげまんじゅうも日本に輸入してほしい。笑

ホテルに戻り、張さんとバイバイし、大同にバスで向かった。結構道がガタガタしていて揺れていた。植林したこともあり、少し眠くなって目を閉じたらあつという間に大同についた。着いたら、これまでのGENの活動についての講演をきいた。一番印象に残ったのは森とかいて「モリ」と読む漢字は、今日植林をして感じたことを全て表現しているなと感動した。そして、成功させるためには長い年月がかかるけれど、枯れるのは一瞬だというお話をしてくださった。何事も何かを達成させるためには努力と年月が必要なんだと改めて感じた。

新しいホテルの夕食は、自分的には大同の料理の方がくせが少なくて食べやすいと感じた。すいかも、大学いもも、たまごも全部おいしくてたくさん食べてしまった。

気がつくと、もうあと3日しかない。毎日が楽しすぎて時間が経つのがすごく早い。明日は、山登りをしてまた植林をする予定なので、また張りきって頑張ろうと思う。また、明日は簡単な中国語を実際に使ってみたいと思う。

【K.T記】

さわやかな朝を迎えることができ、天に感謝! 7時30分にロビーに集合後、徒歩で近くの庶民的な食堂に入る。「連家包子舗」いう店で、そばの湯麺と肉まんを賞味した。ホテルに戻り、少し休んでから8時30分に集合し、2台のミニバスに分乗し出発した。目的地は蔚県柏樹鄉永寧寨村の植樹地である。27日の雨の影響で、どこまで実現可能か? 現地の状況次第ということのを頭にいれての出発だった。

郊外に出ると、一面畑でとうもろこしが多かった。また、道路脇は植樹林で細い木が多く、高さもたいしたことが無く、どうして大きくならないのか気になった。でも、畑は広大で、山すそまで続いており、あんずの木も多かった。途中、貨物専用鉄道を渡った。9時15分頃には山道に入り、部落を横切り、9時30分頃、川床と思われる箇所まで止まり、何かを待つことになった。

アブラマツの苗を積んだ3輪車がとことこ植樹地に向けつづら折りの山道を登って行くのをながめたりしていたが、ようやく、10時20分になって、別な山道を動き出したが、途中の川床寸断箇所で引き返し、結局、苗を積んだ3輪車ともども、別なアブラマツの植樹された場所に移動した。10時45分着。そこで、植樹されたアブラマツ(4~5年)で、枯れたものを根こそぎ掘り出し、新しい苗を植えこんだ。この作業を1時間程皆で頑張った。

11時45分には、用意してもらったスイカを皆で楽しみ、12時10分にそこを出発し、12時40分には、来年の植林場所である代王城鎮にある草原を見渡した。来年ここには、アンズやハシバミ等を植林することで、現地受け入れ側と話を進めていた。

13時には、「緑州生態美食家園」という所で昼食になった。結婚式パーティもあり、にぎやかで、食事馬とラバの肉、山いもなど15種類以上もあり、楽しくおいしく頂いた。

14時過ぎに出発し、ホテル到着後、14時45分にはチェックアウトし、大同市靈丘県に向かった。蔚県から大同市広靈県に向かい、山すそを通り、溪谷に入り、16時頃には広靈県から靈丘県に入った。そこで、現地関係者の出迎えを受け、その先導で、16時30分にホテル明珠国際酒店に到着した。

各人部屋で少しくつろぎ、17時30分からホテル内3Fにて、高見さんの「中国で木を植えて25年」という演題でのお話があった。25年の苦労、失敗、成功、貢献できたこと、この地域の最大の問題、課題、これからの歩み方、そして、最後に、少しでも多くの皆様の協力をお願いして、話しは終わった。

その後、19時から夕食。今日も盛りだくさんの料理が並び、現地関係者も一緒に夕食であった。20時過ぎには終了したが、609号室のFさんの部屋で有志が集まり、前日の剪紙体験品評会を行うこととなった。

今日までのスタディツアーや高見さんの話等から、この地域の特性、さらに、日本の自然と比べ、その大きさ、歴史の重みを知らされ、これからの中国、そして日中関係のあるべき姿、その中で、自分はどうするべきか等、大いに考えさせられることになった。これからもできる限りのことはしたく頑張りたい。

● 8月30日（水） 晴れ→雨時々曇り

【K.M記】

今日は、南天門自然植物園で1日をすごす日。

7時に朝食をたべて、8時半に出発。すでに4日がすぎ、なんとなく疲れた感じがする。

靈丘県城から唐河沿いに下る。なんとなく峡谷沿いは一昨日行った飛狐峪を思いおこさせる。途中上北泉村の付近を通る。たしか4年前に昼食をたべた村だったか。金の大きな仏像のある、ずいぶん豊かになった村だったと思う。ほどなくして、コンクリートの製造所でバスを下りて歩く。平たんな道を歩くこと40分で管理棟につく。何となくなつかしい。それよりも昨日からいっしょにいる大同事務所の面々と4年ぶりに会うのはうれしいし、やっぱり対応に安定感がある。こういうのが25年の成果の一つなんだろう。蔚県のみなさんにも、もう少しスケジュールや事前準備に安定感がほしかった。

早速、記念植樹。コノテガシワとカシを植える。4年前に植えたのがどれだったかわからないが、わからないぐらい残っているのだから良いのだろう。その後、11時30分にちょっと早いお昼。インスタントラーメン。こういう所で食べるとおいしい。

12時15分、いよいよ植物園の参観（＝登山）。4年前のかすかな記憶で、上り下り2時間ぐらいだったように思っていたが、これがそもそもまちがいだっただ。高見さんの解説に従って徐々にのぼる。益母草（やくもそう）、ナナカマド、満州菩提樹、トネリコなどの説明を実物と合わせてみてゆく。植物園のだいご味である。階段の道をのぼって1時間ほど。道をそれて、樹齢70年の一本松へ。このあたりから足と神経がつかれた。その中でも高見さんはモンゴリナラ・リュウトウナラの見わけ方などを解説。おそろべき体力と精神力の持ち主だ。

中腹を約1時間めぐり、階段の道へラストスパート。頂上にはだいたい3時着。「南天門」の碑の前で記念撮影。10人以上が山頂へ。その後下山し、3時半すぎ。結局3時間以上の参観だった。

戻ってきてからのスイカはおいしい。いつも思う。平たんな道を歩いて、4時半にバス出発。帰りは唐河をさかのぼる。峡谷をすぎ靈丘の街をすぎると次にみえるのは黄土台地。侵食溝やもとの梯田の段差がみえる。さらに進むと恒山の山なみ。恒山の下にはトンネル（恒山隧道）が約5kmにわたって貫通し、その先は大同へ。途中、雷雨におそわれながらも無事に7時30分雲崗国際大酒店に到着。靈丘から3時間かかった。夕食では、Tさんと学習院の学生6人と私と魏副所長が同じテーブルになった。

とっても気さくな魏さんは学生とも交流。おそらく、今回のツアーで学生が現地の人と楽しく話した食事ははじめてかもしれません。魏さんにも感謝（むかし2003年ごろ、会田さんたち学生をつれて天津から大同、米脂に行った時も、ずっとつきあって下さったように覚えています）。やはり、大同事務所のある、なしは大きいように思います。明日は2001、2002のときに植樹したカササギの森と采涼山です。4年でどうなってるかたのしみです。

【A.0 記】

朝はとってもいい目覚めで良かった。なぜこの書き出しから始めるのかというと、同室であったMさんのいびきがすごかったのだ。昨日、Mさんと同室であったKさんからMさんのいびきはすごいと聞いていて眠れるのか心配であった。僕が部屋へ戻るとMさんはすでに寝ていて、いびきが嵐の様だった。僕はまずイヤホンをしてみたが、効果はなく、音楽を流してみるとかなり抑えられたが、いびきがかすかに聞こえバックコーラスの様になりそれはそれで気になってしまった。どうしようかとスマホをいじりながら考えているとMさんのいびきが止まったのだ。この瞬間に寝るしかないと思い、すぐ寝ることにした。一度寝たら起きることはなく、無事に今日を迎えることができた。いまになって思えばしっかり寝れていなかったら南天門を登頂することはできなかったと思う。本当に良かった。笑

ということで今日は南天門自然植物園へ向かった。着いてみると昨日の高見さんに見せていただいたハゲ山のような姿はどこにも見つからなかった。本当に緑一つない山から木々でうっそうとしているこの山になったのか信じられないほどだ。またいくつも山があり、この広大な地を緑化できたGENの人たちの技術・熱意に圧倒された。バスから下り、まずは事務所まで40分ほどの道のりを歩いた。衝撃であったのが途中に大麻が自生しており、初めて実際に自生しているところを見た。もちろん大麻には指一本触れていない。事務所に着いて記念植樹をするため僕は苗木を運んだ。思った以上にしんどかった。植樹する場所は草がとっても生えていて、まさに記念という感じだった。前回植樹した方法とは少し違い、水も使った。穴に植樹した後、水を最後に入れてあげる。植林の方法もいろいろあるんだなと思った。ただ、工具があまり足りてなくて手持ちぶさたな人が大量発生していた。

お昼ごはんをすませた後、いよいよ南天門の頂上を目指し、登っていった。木々が本当にうっそうとしていてもはやジャングルであった。松の木は痛く、ところどころ道が崩れていて、歩くのが大変だった。階段の道から外れ、横へ横へと行ったときはもう手が切り傷だらけになってしまった。何故あの寄り道があったのかよく分からない。やっとの思いで戻ってきて、階段を昇り始めると、同じ様に松の木に攻撃されたり、虫がたくさん飛んでたり…。でも頂上へ着いたら絶景で登って良かったととても思えた。本当に一面緑緑緑で緑化されていない場所がなかった。あらためて緑化したGENの人たちを素晴らしいと思う。そして頂上に吹く風はとっても気持ち良かった。下るときになって足が笑い出し、たまにすべったりして危なかった。何人か転んでいて下るほうが危険なんだなとしみじみ思った。山登りでとても疲れてしまってバスの中でぐっすり寝てしまった。このツアーで一番体力を使ったと思う。今日は早く寝て明日に備えようと思う。

【M.F 記】

昨日の夜の電話の恐怖から一夜明け、今日は南天門自然植物園で「コノテカシワ」、若い(?) 苗と記念植樹の日。

朝は時計のアラームで6時30分に起床。荷物のパッキングはだいたい昨日の夜に済ましておいたから、朝はそんなに困らなかった。明珠国際商酒店で8623号室、同室になったOさんは化粧をしていてかなり時間がかかっていた（私はまったく化粧をしたことがなくて大変さがまったく分からない…汗）。

7時から朝食を食べられるということでちょっと早めに朝食会場の1階に行くと、IさんとNさんがもう先に来っていて早っ!と思った。Nさんのとなりに席をとり、バイキング形式になっていたから、

大きい平皿に肉まんとあんまんらしきものをのせ、ゆでたまご、じゃがいもを使ったサラダをチョイス。中華スープ（と言うのかな？）と、牛乳もチョイスした。牛乳は温められていて、そのすぐそばに、砂糖が大量に置かれていた。牛乳に砂糖?! 初めて見てとてもビックリしたが、牛乳自体が甘く、さらに甘くしたい人はどうぞ。のつもりで置いてあるようだった。私は少し多めに砂糖を入れた。スープはコンソメ感が少し薄いけどまあまあ美味しかった。さすが本場、肉まんは肉のうまさと肉汁、ニラの風味がきいて、とてもおいしかった。

バイキング形式で食べ残すには少しとまどいがあったが、朝食はあまり食べることができないので仕方なく残した。ごめんなさい…。お客さんに向け、麵を配っている人が“ニーハオラー（你好了）？”と言っていた。Wさんに聞いたら、「足りますか？」という意味だった。良く聞いていると、ニー（你）とニン（您）を2つ使い分けていた。

ニー（你）は同じくらいの歳の人に使い、ニン（您）は自分より年上の人に使うという。中国でも日本語のように人を尊敬するような言葉を使うことがあるのだと知った。



朝食が終わり、部屋で最終荷物の点検。忘れ物をよくする私は、忘れ物がないよう昨日のうちにパッキングを済ましておいたから、忘れ物はないと思うけど確認した。

忘れ物がないことを確認したら、ロビーへ0さんより一足早く行った。エレベーターを待っていたら、偶然、祖父と合流した。Tさんとつよぼん似のあの人（ごめんなさい！ 名前が分からなくて…）とも合流して、1階のロビーへ。ロビーについたら、IさんとNさんはもう来ていて、また早っ！ 少ししたら、みんながエレベーターから降りてきて、合流完了。預ける用の荷物をバスに積み込み、バスに乗り込む。

全員乗ったら、バスは南天門自然植物園へ向け出発。渋滞をしやすい難所を通るが、渋滞は、最近高速道路が完成して車はそっちに流れているから、問題はないだろうと高見さんは予想していた。予想通りあまり止まることなく、スルスルバスが動いていった。1時間ぐらい走ったら、砂利道へ。舗装された道の時の色と砂利道に入ってきた時の色が違った。鉄分が多くなってきて、赤くなってきていた。

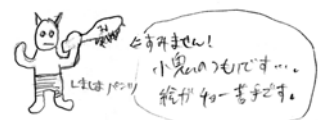
バスは山頂へ行かず、途中でストップした。そこから徒歩で登った。入口には、道路を舗装するためのコンクリートが作られていた。岩、石がごろごろしていた。鉄を多く含む石、白っぽいチャートだったり…。地質は異なる層がたくさんあった。

私は半袖にベストと植樹に必要な道具を持って、植物園の管理棟へ登った。道は石がたくさんゴロゴロしていた。初めの方は横に層がしましになっていて。れきが途中にはさまれていた。化石はなさそうな地層だから、先カンブリア紀の時の地層だと思われる（下の方は川の氾濫などによりれきが積もったものだと思われる）。もう少し登ると、コノテカシワの木々が道の両端に植えられた道になった。見るからに人為的に植えたものだ。自然に種から生えるときれいに道に沿わないと思う。コノテカシワは最初、モミの木かと思ってしまった。

“コノテカシワ”の名を知ったのは植樹の時。管理棟に行くまでは何の木なのかまったく分からなかった。小さくとげとげの実がなっていた。小さくて鬼のようで小鬼さんを想像した。

崖側の木の中で、私の背と同じくらいのコノテカシワがあった。Wさんに写真を撮ってもらい、自分の中で、“私の友達”の題名をつけた。

20分ぐらい歩くと、かべの堆積しているものが変わった。れきはいっさい混ざらず、黄土だけになった。行く道に祖父が待っていて、そのかべの説明をしてくれた。れきがまじった層の上になった層で、



木々がこの層の上に根を張り、むき出しになったところから根を張っているところが間近に見えた。黄土は大変粒子が細かく、単粒構造になっていて、日本にはないのだと祖父が教えてくれた。

少々気になるので砂のサンプルを取った。確かにさわるととても細かく、弱い力ですぐに崩れてしまった。

道にはさまざまな石が転がっていた。気になる地層の石を拾ってはベストのポケットに入れるの繰り返しをしながら、登っていった。

昨日から続くひざの痛みを我慢しながら、なんとか管理棟に到着。古い建物の中で、中国のカップラーメンを賞味した。味は3種類あったが、その中で私はシーフードを選んだ。まず最初にカップラーメンを見て思ったこと。カップがでかい!! 日本のカップの1.5倍くらいの大きさに1人前。日本では大盛りぐらいの量だ。びっくりしながら、袋をあける。カルチャーショック! カップの中に半分に折りたたまれているフォークがあった。日本は箸を使うことが多いけど、フォークを使うのは初めてだった。箸に慣れてしまうと、フォークというのはとても使いづらい。やっぱりラーメンには箸がいいと思った。味は若干塩感が強かったが、口にあっておいしかった。おみやげにもいいかな~と思った。



昼食前にコノテカシワの苗と記念植樹をした。山に登る道と分かれて、右手側にあった道へ、苗を持って登る。足元は湿っていて、滑りやすくなっていた。何度も少し滑りながら登りきると、そこには多くの木々が植えられていた。奥に進み、地元の GEN メンバー（だったかな?）に植え方を教えてもらった。

1. 直径 30cm 深さ 30cm の穴をほり水を入れる。
2. 水が完全に引いたら、苗のポットをはずし穴に苗を入れる。
3. 土を穴の中に入れ、株元を少しふむ。

の順番だった。昨日は 50cm × 50cm だったが、苗が今回少し小さかったので、納得はした。

土をほる時はあまり固くなかった。まわりの雑草をも切りながら穴をほり、苗を入れる。上手に入れないとうまく真つすぐに立たず、斜めになってしまった。傾いている方に土を多く盛り、なんとか直し、完成。

記念植樹では何を植えたか分からなかった。しかし、学生（大学生）たちが積極的に植樹していた。

地元の人たちと私たちが協力することで、GEN が 25 年間してきた緑化活動をまた続けることができるのだと思う。

苗を植えて斜めになってしまったのは、前中代表曰く「その木は一生傾きを背負っていく」。それを聞いて責任重大なことだと改めて思った。“緑化” 一言では木を植え緑を増やすと言えるけど、現実はいかに難しいのだと思い知らされた。苗木を育てる年月と植える時間とでは大きな差がある。苗を植えるのは簡単だけど上手に植えなければ育ててきた時間がもったいない。植えることの大切さ、重要さを思い知らされた。

水土流出、堆積黄土など知らないことを知ることができた。日本では見ることはできない地層には目がキラキラ輝いて、中国の生活は日本とどこか似ていて少し違う所もあるのだと分かった。

夜の食事で W さんが仕事と学校の都合で帰国となった。食事終了後お見送りをした。3 日間 (?) だがずっと同室になって中国語について教えてくれて、いい話相手になってくれた人とお別れはさみしかったけれど、9 月に会えることが分かっているので、そのときを楽しみにしたい。

こんなに長くつたない文章に待たせてしまった I さんには本当に申し訳ないと思う。しかし、もっと書いていたい気持ちが強かった。今回、夏休みを割いてこのスタディツアーに参加できてよかった。残り少ない日程を大切にしていきたい。ありがとうございました。

● 8 月 31 日（木） 晴ときどき雨

【K.T 記】

今回の GEN のツアーで最もランクの高い大同城壁内のホテルで気持ち良く目覚めて向かった朝食も口

に合う料理が多かった。

チェックアウト後に向かった采涼山地球環境林・カササギの森は GEN が 1999 年から大同県聚楽郷と協力して植えたもの。その南斜面を見学したが、そこは典型的な南斜面であり、自然条件が悪い上に周辺住民が貧しく、植樹に適した場所とは言いがたいところらしい。それでも、人工的な北斜面を作るという中国側の技術と、マツを菌根菌とともに植えるという日本側の技術の両方を持ってして、今では立派な松林となった姿を見ることができた。本日最も驚いたのは、クリスマスツリーの大部分はモミの木ではなく、トウヒ（唐檜・中雲杉）であるという事実。モミの木はクリスマスソングにもよく登場するのでショッキングだったような、知らなかったことを知れて嬉しいような、微妙な気分になった。その後に見たトショウ（杜松・ネズミ刺し）は見るからに痛そうで、実際に触てみるとやはり痛かった。

その後に行った緑の地球環境センター（白登環境センター）では、前中代表から現地メンバーへの感謝状の贈与という感動的なセレモニーが行われ、学生の中には前中先生とともに涙ぐんでいる人もいた。記念植樹を行い、昼食で腹ごしらえをした後に、高見さんの解説でセンター内を見学。「小老樹と呼ばれるポプラも、孫名義のクレジットカードを勝手に使ってしまう老人よりは後の世代の役に立っている」という笑ってよいものか迷ってしまう冗談も挟みつつ、センター内のあらゆる植物を把握し説明してくださる高見さん（と前中先生）の知識量に圧倒される。

緑の地球環境センターの見学後は大同駅に向かい、手荷物の X 線検査や金属探知機など厳しい検査を受けたのち、列車の出発まで駅で待つ。アメリカで乗った Amtrak 以来の寝台列車に多少気分が上がりながらも、列車内でこの日誌を書く（そのため字が乱れているのはご容赦いただきたい）。降車後は明日の帰国に備えて北京で宿泊。この旅を可能にくださった全ての人に感謝！

【S.F 記】

8 時 30 分出発。この日は采涼山プロジェクト、カササギの森、緑の地球環境センターの見学という日程。

以下、高見さんの説明。

◎采涼山プロジェクトは 1999 年開始。230ha に植樹をし、現在 60 万本が残っている。南向きの斜面で、ここは困難な土地と言われたが、うねを作って 7、8 月の雨を貯め、翌年春に生かすなどの工夫をして、吉良竜夫さんにほめられた。

◎カササギの森は 2001 年から植樹を開始した。聚楽郷政府に譲渡した。

◎緑の地球環境センター（23ha）は環境林センターから移った。30 年無償で提供してもらうことになった。来年からは大同市総工会が管理・運営することがほぼ決まっている。

南天門自然植物園からカササギの森に移したナラの苗はまだ小さい。南天門では 7～8m に育っているという。ところがここ数年で急に伸びきっているものが出てきた。菌根苗の働きもあるかも知れないという。

大同旧市街と新郊区の間を流れる御河には全く水がなかった。バルーンでせき止めて一部水を貯めている箇所があるが、以前に聞いた話では下水の再生水を使っているようだ。その時歩いて訪れたが、何人かの人たちが釣り糸を垂れていた。再生水でも魚は住めるのだ。北京の盧溝橋の下を流れる永定河（大同を流れる桑干河の下流）も同様に水を貯めている。かつては燕京八景のひとつとされ、河畔に「盧溝曉月」（乾隆帝筆）の大きな碑が建っているのに全く水がないのは恥ずかしいので、そうしたのだろう。御河はそれを真似たのか。

緑の地球環境センターでは、前中代表から武春珍所長ら大同事務所の 8 人に、これまでの労苦に対して感謝状を贈呈した。前中代表は感極まって涙をこらえ切れなかった。また記念としてセラミック製の包丁も贈呈した。「私たちの関係はこの包丁で切っても切れない」という趣旨だった。

また同センターでは、ツアー団員一人一本ずつモンゴリナラを植樹した。キビ畑には、前はかすみ網をかけ、そこに雀が何十羽もからまっている懐かしい光景を見たが、今回は黒いビニールに葉を浸

けたものを垂らし、鳥除けにしていた。雀を獲ったらいけなくなったのかしらん。

大同発 16 時 38 分 K696 列車は約 1 時間半遅れて 9 月 1 日午前 0 時ちょうど北京駅に到着した。遅れの理由について車内アナウンスがあったかわからない。2～3 人の団員に聞いたが承知していなかった。

【M. I 記】

今日は昨日の登山の疲れでかなりぐっすり寝ていたと思います。起きたら腰とふくらはぎが筋肉痛で、足首には登山中にマツが刺さった跡がありました。登山は初めてで疲れましたが、達成感を得ることができました。

雲崗国際酒店の朝食はこの 6 日間の朝食の中で一番豪華に感じました。バイキング形式だったので、朝からたくさんは食べられないと思い、トマトスープとかけた刀削麺とオレンジジュースを選びました。刀削麺は中国に来て初めて食べましたが、私の口に合っていて気に入りました。オレンジジュースが温かったことには驚きました。中国では冷たいものは体に悪いとされ、ジュースでも冷やしたものより、常温あるいは温かいものが置かれているとわかりました。

ホテルをチェックアウトした後は大同県聚楽郷采涼山地球環境林に行きました。苗木を植えるときに周りの土を少し高くします。それは、雨が少ない土地なので、7、8 月に降った雨を、特に雨が少ない春まで貯めるという目的があります。また北斜面を作って木に影が当たるようにします。



緯度の違う所に木を持ってくると育ちににくいそうです。北の方にある木を南に持ってきた場合は、小さいうちは暖かさによって育ちますが、だんだん呼吸が合わなくなり、ほとんどが枯れてしまいます。南の方にある木を北に持ってきた場合は、反対に、小さいうちは育ちににくいですが、寒さを耐え抜いた木は生き残っていけるそうです。適材適所というように、育ちやすい環境で育ててあげることがベストであると感じました。

黄土高原は乾いた土で雨がなかなか降らない土地です。しかし雨が降ると、木がなければ、せっかく肥料を与えた土も水によって流されていってしまいます。これが「水土流出」です。水も土も流されてしまいます。そこで木を植えると、雨がいきなり地面に落ちていくのではなく、枝、幹、葉に当たってから地面に落ちます。こうすることで「水土保持」ができるということです。地に深く根がはったり、雑草が生えたりすることも土地を豊かにする意味があります。砂漠化した土地の水害は想像しにくいですが、植樹は裸の土地の水害を防ぐこともできるのだとわかりました。

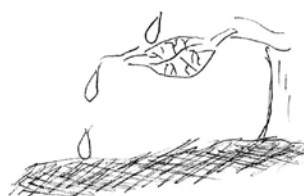
その後緑の地球環境センター（白登環保中心）に行きました。前中さんが包丁を渡して、切っても切れない仲だと言ったときには植樹をしてきた長い歴史を感じました。

カササギの森でも多くの植物を見ることができました。枯れ地にはまらず、枯れた土地でも育つことができるマツやシラカンバを育てます。それらが育って、確実に根をはっていくと、周りに雑草も生えて、土が肥え、肥えた土地で育つ木も育つようになっていくとわかりました。必ずそういったサイクルで土地が豊かになっていきます。

枯れた土地にはマツやシラカンバのような母樹となる木から始める必要がありますが、それがないために、私たちの手で木を植えてあげることが重要となっていきます。

また、松は節の数を数えれば年数が分かるということも中国に来て初めて知りました。1 年でこれだけしか育たないのかとも思いますが、育つのはとても苦労することがわかりました。

大同駅ではティラミスケーキをコンビニで買いました。あまりティラミス感はありませんでした。列車に乗って、中国人と話しました。スーツケースを上棚に置くことをおばさんが教えてくれて、置いてもらいました。“Where are you from?” と聞かれて“Japan”と答えました。カップラーメンの湯を入れたいときと捨てたいときにも中国人のおじさんが教えてくれました。私が日本人とわかって、水筒の象印のマークをおばさんが指し示してくれました。銀のお皿に口を結んだふくろを置いていって



そのおばさんが寝た後、ゴミを取りに乗務員が来たので、親切心からそれを捨てました。けれども私の勘違いだったようで、まだ中には食べものがあったということに、おばさんが起きてから知りました。Kさんに訳してもらって、弁償はいいとのことでしたが、Kさんから50元渡されこれで何か買えと言われました。どうしたらいいのかわからなくて気分が下がってしまいました。その後、私の連絡先を聞きたいという中国人男性からタダでブルーベリー味のあんずを2つもらってしまいました。おばさんに渡そうとしましたが、結局いいと言われました。“不客气”と言って頭を下げましたが、後から調べ直すと、“どういたしまして”という意味とわかって、すごく恥ずかしかったし、ますます申し訳なくなりました。通訳をしている崔さんとも話ができました。いろいろな話をして楽しかったです。写真もとれて良かったです。

北京駅に着いたのは0時でした。最後にスーツケースを背の高い、アディダスTシャツを着たカッコいいお兄さんが下ろしてくれて嬉しかったです。想像していたよりもずっと、中国人が優しくて、おばさんも許してくれたようで本当に良かったです。私は初の海外で緊張している部分も多かったですが、植樹だけでなく幅広い知識、経験を得ることができたと思っています。中国語や中国史をもっと勉強してみたいとも思いました。

● 9月1日（金）

【K.I 記】

昨夜遅くに着いた北京護国寺賓館は、バスも横付けできないという路地にあり純中国風の建物だが、バスタブもありお茶の葉もあり good。成田組と再会を約してお別れした。

朝食はできないというので返金された30円で、すぐ隣の食堂に入り各自好みのものを注文したが、一番気楽な食事だった。

9時チェックアウト、空港で出国手続き後、ゆっくり韓国定食でも頂くつもりだったが1時間遅れで車椅子の手配ができず、皆さんに迷惑をお掛けした。

飛行機が頑張ってくれ30分遅れの18時半関空着。通常なら最後に降ろされるところだが、乗り換え時間が無いことが通じていたのか車椅子で一番に降ろされ、ANAの職員が駆け足で定刻5分前に飛行機に着き19時25分の福岡行きに乗り大助かりだった。

我 衰えたり！

1945年の敗戦、南満州の鞍山中学校1～2年生時、毎日学校へシャベルを担いで登校し、塹壕掘りで鍛えられた私は、80歳までは、GENでも有力な働き手だったが、2012年東北大地震のボランティアに参加時、腰椎圧迫骨折を受け、一時、完治したが2015年年末に再度痛めてからは往年の馬力は失われ残念だ。（中国の）シャベルは柄が折れやすいので日本から持っていった猛者も居られた。

大同で

1995年3月、要支援の妻と参加しお世話になった王萍さん^{わんぴん}、痛風だからとビールを飲ませてくれないう魏さんや武さん郭さんに再会したことはうれしかった。何よりの収穫は、南天門自然植物園・采涼山・カササギの森の見事に成長した樹木を眺め、充実感を味わうことができた。

子供を口説いて来年も再会したいものだ！！

【K.F 記】

河北省蔚県になっての2017 GEN スタディーツアーが終わろうとしています。北京下街のホテルで一晩を明かし、朝食はホテルの横の食堂でとりました。関空組8人で一緒に食べましたが、その値段の安さに驚きました。

河北省は山西省でのツアーの時に何回か通りましたが、本格的な訪問ははじめて。「打樹花」を見た劇場や「蔚州博物館」のスケールの大きさ。展示の豊富さに驚きました。上田先生の「200年前の歴史が瞬間凍結された文化」という表現に納得しました。

9月30日の学習院大学でのツアー報告会に備えていろいろなハードディスクに入っているツアーの

写真をまとめて見ました。99年からツアーに参加し、行った回数は専門家調査団を含めて今回で13回目。写真は60GBになりました。南天門植物園は99年から、采涼山も99年、カササギの森も2002年とプロジェクトを始めた年に参加していました。

学習院大学の学生の感想に多く見られたのは「南天門へ登るのに松の枝が邪魔でした」という感想が多く寄せられました。その前に、あの登山道が作られた歴史やなぜ松の枝が邪魔をするのかという洞察が無いことが少し残念でした。

GENのツアーで私が最も大切にしているのは「采涼山の松林」です。99年に遇賀山でアマタケのキノコを探し、その胞子液を国営の育苗圃場で松苗に接種するところから始まりました。高見さんが「失敗はすぐに結果になるのでわかりやすい。成功は分かるまでに時間がかかる」といった言葉が実感できる場所です。私なりに采涼山の松の写真を見返して見ました。ご覧ください。



1999年 夏



2000年 夏



2002年 春



2005年 夏



2005 年 夏



2006 年 夏



2007 年 夏



2010 年 夏



2012 年 夏



2017 年 夏

この記録は、緑の地球ネットワーク 2017 年 8 月 黄土高原スタディツアーに参加したみなさんがツアー中交替でつけた日誌と、一部参加者より事後に寄せられた手記をまとめたものです。一部の漢字・仮名遣いや句読点の使い方、改行の仕方、固有名詞の誤記等改めた部分もありますが、文章表現は原文のままです。ただし、簡体字（中国の略式漢字）は編集の便宜上できるかぎり相当する日本の漢字に改めました。

2017 年 12 月

緑の地球ネットワーク

